



著者プロフィール

斎藤夏風（さいとう・かふう）

昭和6年 東京都に生れる。

昭和28年 「夏草」入会。

昭和37年 「夏草」新人賞受賞。

昭和40年 「夏草」同人。編集担当。

昭和61年 夏草賞受賞。

同 「屋根」創刊主宰。

句集『埋立地』『櫻楯』『次郎柿』『燠の海』『禾』

随筆『三艸春秋』

評論ほか『山口青邨』『俳句創作百科・河』『草木花春夏秋冬』

俳人協会理事、日本文藝家協会会員、日本ペンクラブ会員。

〈句集『辻俳諧』より転載〉〈2010年9月29日時点〉

『辻俳諧』

（自選15句）

斎藤 夏風

山桜遙か満ちつつ日は西に
蒲團干すそこに兔を追ひし山
無住寺は山裾にあり麦の秋
虹鱒のそよごごとくに遠ざかり
お山より綿虫小虫子規の庭
母の日の妻が磯辺の夢枕
ひとつ穂にひとつ夕映蘆の花
ひとまつの出穂の安心水の秋
提灯を伸ばせば音や盆仕度
路刈や溝は千曲川の分れ水
邯鄲の風をころがすこゑにして
飛鳥仏けふも面長大根干す
迎火を遊びせむとて魂に焚く
七節虫はおとなしき虫鬘草
水切つてこれなる軽み晦日蕎麦